

## 令和5年度 第1回 市川市健康都市推進協議会会議録

1.開催日時：令和6年 2月 1日(木) 13時30分～15時00分

2.会 場：市川市役所 第1庁舎5階 第4委員会室

3.出席者(敬称略・五十音順)

【座長】

和洋女子大学 教授 藤澤由美子

【委員】

市川市歯科医師会 理事 鈴木 淳

千葉県市川健康福祉センター 副センター長 久保木知子

市川市健康都市推進員会 会長 曾田 修吉

市川市保健推進員 小川 直子

市川市食生活サポート協議会 会長 君和田敏子

市川市民生委員児童委員協議会 理事 木村 良人

市川市スポーツ協会 会長 清水 輝和

市川市スポーツ推進委員連絡協議会 副会長 新井あけみ

いちかわライフネットワーククラブ TMO フェロー 五関 雅子

【市川市】

小川企画部長、稲垣健康都市推進課長、久木主幹、川原副主幹

【傍聴者】

0名

## 議事内容

### 【司会 健康都市推進課長】

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

これより、令和5年度第1回目市川市健康都市推進協議会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会をいたします健康都市推進課稲垣と申します。よろしくお願いいたします。

着座にて進めさせていただきます。

まず今回の会議につきましては、審議会等に位置付けられておりますので、市川市審議会等の会議の公開に関する指針より、原則公開となります。本日、非公開とする本会議、こちら議題はございませんので、この会議は公開とさせていただきます。本日、傍聴者はおりませんので、このまま会議を進めさせていただきます。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、市川市企画部長、小川広行よりご挨拶申し上げます。

### 【企画部長】

皆さんこんにちは。

ご紹介いただきました企画部長の小川と申します。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃より、健康都市の推進に関する施策につきまして、ご理解、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

この協議会は、平成15年に設置されてから、各分野の専門家の皆様からご意見をいただく貴重なお時間となっております。毎年開催をしておりましたけれども、コロナ禍ということもございまして、本日は4年ぶりの開催となり、皆様と対面でお話ができるということを非常に心強く思っております。

さて改めまして、健康都市推進協議会の運営に関する要綱をちょっと見直してみました。この協議会の趣旨というのが、第1条になります。すべての市民が安心して健やかに生活することができる健康都市を目指して、市民、事業者及び市の連携を図るために開催すると、ございます。

平成15年度からこのような趣旨のもと進められてるわけですが、今田中市長が、就任以来、健康寿命日本一という施策を最も重要な施策のひとつとして位置付けて、今進めているところでございます。

何より委員の皆さんも市民お一人お一人も、健康で楽しく快適に過ごせる市川市になっていただきたいと担当部署をはじめ庁内を挙げて全力で取り組んでいるところでございます。

今日は、委員の皆様方におかれましては、それぞれのご専門の立場から、忌憚のないご意見を頂戴したいと思っております。

また、今後ともご協力、ご指導を賜ることをお願いいたしまして、私からの簡単でございますが、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

### 【司会 健康都市推進課長】

申し訳ございませんが、部長につきましては、別の公務がございますので、ここで退室させていただきたいと思っております。大変申し訳ありません。よろしくお願い致します。

それでは、次に今年度、最初会議ということで、委員の皆さまをご紹介させていただきます。

恐れ入りますが着座にて、よろしくお願いいたします。

和洋女子大学 教授 藤澤由美子様。

市川市歯科医師会 理事 鈴木淳様。

千葉県市川健康福祉センター センター長 影山育子様代理で副センター長、久保木知子様。

市川市健康都市推進委員会 会長 曾田修吉様。

市川市保健推進員 小川直子様。

市川市食生活サポート協議会 会長 君和田敏子様。

市川市民生委員児童委員協議会 理事 木村良人様。

市川市スポーツ協会 会長 清水輝和様。

市川市スポーツ推進委員連絡協議会 副会長 新井あけみ様。

市川ライフネットワーククラブ TMOフェロー 五関 雅子様。

なお、市川市医師会、岩澤秀明様、市川市薬剤師会 寺澤千恵子様、市川市教育委員会 野口知子様、市川市自治会連合協議会 岩松昭三様 こちら4名の委員からは本日欠席とご連絡をいただいております。

それでは次に、お手元の要綱を見ていただければと思います。裏面になりますが、市川市健康都市推進協議会の運営に関する要綱第5条となります。

こちらに協議会の会議は、協議会の出席者のうちから座長を選出し、進行するものとなっております。

座長につきましては、今年度も引き続き、藤澤委員にお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

(異議なし・拍手)

それでは申し訳ありません。藤澤委員よろしくお願ひいたします。

座長席にご移動ください。よろしくお願ひします。

#### 【座長 藤澤委員】

和洋女子大学の藤澤と申します。よろしくお願ひいたします。

座長ということで、進行を担当させていただきます。よろしくご協力お願ひいたします。

それでは、早速ですけれども事務局から、会議の公開についてご説明をお願ひしたいと思います。

#### 【司会 健康都市推進課長】

この協議会の会議録につきましては、市川市の公式Webサイトで公開しております。

この会議録は、皆様ご発言された一言一句正確なものではなく、意見を集約したもので、発言された方のお名前を入れさせていただいております。公開に際しましては、各委員の発言部分は各委員に、全体部分は藤澤座長に確認の上、公開させていただきます。

この会議の開催状況を市公式webサイトや市の刊行物等で公開するため、写真等を撮影させていただきたいと思ひます。併せて、皆様のご承認をいただければと思ひますが、よろしいでしょうか。

それではご承認いただいたということで、会議録のホームページに公開すること、それから実名入りのものとさせていただきます。また各種紹介用に写真を撮影することについても許可させていただきます。

#### 【座長 藤澤委員】

それでは、議題にうつらせていただきます。

議題1「健康都市推進の取り組みについて」です。事務局よりお願ひします。

【事務局 川原】

議題1「健康都市推進の取り組みについて」ご説明させていただきます。

健康都市推進課の川原と申します。本日はよろしくお願いたします。着座で失礼いたします。

皆様にも投影資料を配布しておりますが、画面も併せてご覧いただけたらと思います。

今回は、令和3年度から令和5年度の健康都市の推進に係る事業についてご報告させていただきます。

毎年、NPO法人健康都市活動支援機構と市川市が共催で実施しております健康フェスタは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、令和2年度は中止しましたが、令和3年度は、市役所第1庁舎の1階ファンクシヨナルームでパネル展示という形で実施しました。内容は、もっと知りたい、SDGs、健康と環境をテーマにし、SDGsの17の目標の中、特に健康と環境に焦点を当て、様々な取り組みに関するパネルの展示を行いました。期間は3月の1週間程度でありましたが、延べで280名の来場者がありました。

令和4年度には、第18回健康都市連合日本支部大会が大阪府泉佐野市で行われました。

当初8月の開催を予定しておりましたが、やはりコロナの影響を受け延期となり、11月に内容を短縮した形で実施されました。

10月には、全日警ホールにおいて、2022年の健康フェスタを開催いたしました。

令和4年度の健康フェスタはまさに3年ぶりの集会型での開催ということで、数多くの市民の皆様にご参加いただくことができました。内容は、南極シェフによる講演会、そして健康都市推進員によるタオル体操など多少制限はございましたが、参加された市民の方はもちろん、主催者側も久しぶりの集客型のイベントに、とても充実感を感じるものになりました。

そして、今年度は、令和5年7月に第19回健康都市日本支部総会大会が愛知県あま市で開催されました。市川市からは田中市長、当課課長、担当主幹の3名が参加し、加盟都市による活動発表として、今年度よりスタートした健康ポイント事業の「Aruco」を取り上げ、健康寿命日本一に向けた取り組みについて田中市長が発表しました。

なお、令和6年度の健康都市日本支部大会は、7月に大阪府の吹田市で開催される予定になっております。また、令和5年11月には健康フェスタを開催いたしました。第1回の健康講演会と同時開催し、タニタヘルスリンクの管理栄養士による健康的な食習慣に関する講演、そして、健康都市推進員による体組成測定や、血管年齢測定など体験型の測定会を実施し、非常に盛りだくさんの内容で行いました。

参加された市民の方は、参加したことで、ご自身の体について知り、健康について学ぶということができ非常に満足度の高いイベントとなりました。健康都市の推進の取り組みについては以上でございます。

【座長 藤澤委員】

それでは、皆さまご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、次に議題2、健康寿命日本一に係る指標の設定及び取り組みについて、事務局よりご説明お願いたします。

【事務局 久木】

議題2 健康寿命日本一に係る指標の設定及び取り組みについて説明させていただきます。

健康都市推進課の久木と申します。よろしくお願いたします。着座にて失礼いたします。

まず健康寿命日本一ということで先ほど小川部長からもお話がございましたが、本市が健康寿命日本一を目指すということで、まず健康寿命について簡単にご説明させていただきます。

健康寿命とは、集団の健康状態を表す現行の指標の1つとなっております。

健康寿命の算出方法は現在日本では3つ示されており、健康上の問題で日常生活が制限されることなく、生活できる期間が、主の指標として定められております。

こちらは健康上の問題で日常生活に何か影響がありますかという質問に対し、ないと回答したものを健康と定める国民生活基礎調査のデータから算出されるものとなっております。

この主指標に加え、副指標として、ご自身が健康であると自覚している期間の平均、こちらは現在の健康状態はどうですかという問いに対し良い、まあまあ良い、普通と回答したものを健康と定める、同じく国民生活基礎調査のデータから算出されています。

もうひとつの補完指標は、日常生活動作が自立している期間の平均、こちらは介護保険の要介護2以上の方を不健康な状態、それ以外を健康な状態とする介護保険データから算出されるものとなっております。

主指標、補完指標のうちの健康観については、県単位のレベルまでしか算出されていないものですが、補完指標のうち自立度については、市ごとの算出が可能となっております。

続きまして、平均寿命と健康寿命についてお話をさせていただきます。

平均寿命とは0歳における平均余命を指しています。平均寿命も健康寿命も年々延伸しており、平均寿命と健康寿命は男性で約9年、女性で約12年の差があります。

この平均寿命と健康寿命の差が不健康な期間を意味するものですが、これは2010年(平成22年)から男女とも徐々に縮小傾向となっております。高齢化が急速に進む中、一人一人の生活の質を維持して社会保障制度を持続可能なものとするためには、この平均寿命の伸びを上回る健康寿命の延伸、すなわち健康寿命と平均寿命の差をさらに縮小していくことが重要とされております。

次に平均寿命の現状の年次比較です。こちらは令和2年のものが最新となっております。

市川市は千葉県全国と比較し、男性女性とも若干高くなっています。しかしながら男性の令和2年の平均寿命は平成27年より少し短くなっています。

続きまして、健康寿命の年次比較、これは市毎の算出がないため、全国と千葉県のデータですが、男性で令和元年現在72.61歳、女性で75.71歳、となっており、男性が全国26位、女性が21位となっております。

続きまして、平均自立期間、先ほどの補完指標は、65歳以降に自立して生活できる期間、いわゆる要介護2の認定を受けるまでの期間の平均の年数を65歳に加えて算出するものとなっております。

令和元年現在、市川市が男性で82.76歳、女性で85.89歳と年々上昇しておりますが、先ほどの平均寿命と比較すると、千葉県より下回るような状況であることがわかります。

この平均自立期間は市町村毎に算出が可能となっておりますが、人口規模や人口構成が異なるため、比較するものではないと言われております。千葉県が公表するデータを県内順位ごとに並べると、市川市は男性が34位、女性が27位となっております。

本市では健康寿命を延ばす、健康寿命日本一を目指すということで、指標を設定し、その指標を向上させる取り組みを進めていくため、現在、健康都市推進課が担当となり、指標の設定を行っているところです。

本日はその指標について皆様にご説明をさせていただき、皆様からご意見をいただければと考えております。まず、目指すべき姿は「市民がいつまでも地域で健康であることを意識して健やかに暮らせるまちいちかわ」と設定しまして、2つの指標を設定しております。

指標の一つは、主観的健康観の向上、これは先ほどご説明いたしました、国の示す健康寿命の副指標、自身が健康だと感じる市民の割合を増やすとしました。

もう一つは、日常生活動作が自立している期間の延長、こちらも国の示す健康寿命の補完指標であり、要介護2以上になるまでの自立した期間を延ばすこととしました。この2つの指標を向上させることで、健康寿命日本一を目指していきたいと考えております。

主観的健康観に関しては、後ほど皆様にアンケート調査の結果をご説明させていただきますが、毎年度市民の方を対象にとるアンケート項目となっており、また、それ以外にも様々な関連計画で同様の質問項目を設定しているため、指標とさせていただきます。

平均自立期間に関しては、市町村毎の算出が可能ということで、高齢者にやや偏ったデータになるところではありますが、客観的に評価していけるものということで設定しました。

そして、こちらの指標をどのように向上させていくのかという具体的な取り組みについては、8つの分野に分けて設定しております。

指標は毎年見ていきますが、単年度で評価できるものではありませんので、それぞれの分野で、具体的に事業レベルに落として取り組んでいくということで、各事業のなかで評価が可能なもの、毎年度、事業の実績として評価していけるようなものを項目として設定しています。

例えば、栄養食生活の分野だと、バランスのよい食事をとる市民の割合を増やしていく、適正体重を維持している市民を増やしていく。身体活動・運動であれば、運動習慣者の割合を増やしていく、歩数を増加させていくというように、具体的な目標値というものをこちらに示し、それぞれの取り組みを向上させていくことで指標を向上させていきたいと考えております。

健康寿命日本一に係る指標の設定、そして取り組みについてのご説明は以上となります。

【座長 藤澤委員】

皆さま、ご質問ございますでしょうか

【曾田委員】

健康寿命ですね。ただいま、健康寿命についてご説明があったとおり、健康寿命を延伸するのは最もだと思えます。じゃあ具体的に、市民は何をどうしたらいいのかということの、ブレイクダウンというか、具体策というのは検討されておられるんですか。

【事務局 久木】

はい、ご意見ありがとうございます。

具体的に市民の方が何に取り組んだら健康寿命が延びるのか？ということを伝えていくことが必要であると考えておりますので、今ご説明させていただいた栄養・食生活はこういうことに気をつけましょう、歯科口腔であればこういうことに気をつけましょうというように、市民の方にはその具体的な取り組みとして、今後お伝えしていきたいと考えております。

【座長 藤澤委員】

よろしいでしょうか。

なかなか微妙なところですが、具体的には、市の各担当課、部署で様々な取り組みがされておりますので、そういうところで市民の皆さまには働きかけがあると思います。

その他、皆様の団体でも身体活動であったり、口腔の取り組みだったりそれぞれ活動されていることがあると

思います。その他にいかがでしょうか。

後程、各委員の皆様のご取り組み等については、ご紹介させていただき、お互いに情報共有するということで、確認ができれば良いと思っております。何かご意見ございますでしょうか。

続いて、議題3の健康いちかわ21の進捗報告をしていただきますので、そのところで今の指標についての関連ですとかご質問いただければと思います。

それでは、議題3 健康いちかわ21進捗報告について事務局よりご説明お願いいたします。

#### 【事務局 久木】

それでは、議題3、健康いちかわ21第2次の進捗報告をさせていただきます。

皆様のお手元には、市川市健康増進計画の概要版、そして、事前に送付いたしましたアンケート結果、こちらはデータの修正がございましたので差し替えとしてお渡ししております。

後程ご覧いただければと思いますので、もしよろしければスクリーンをご覧になってください。

本会議では、健康いちかわ21市川市健康増進計画について、委員の皆様からご意見を伺いながら進捗評価をしていくことに加え、計画策定していくことも議事内容となっています。今年度から新たに委員になられた方もいらっしゃいますので、健康いちかわ21について、簡単にご説明をさせていただいた上で、アンケート結果についてお話をさせていただきます。

市川市健康増進計画 健康いちかわ21、こちらは健康増進法第8条第2項の規定による市町村健康増進計画として、平成18年に第一次計画、そして平成28年3月に第二次計画を策定しました。

健康日本21、健康ちば21の基本的な考え方を勘案し、市民の心と体の健康づくりに関する施策についての計画としたものになっています。

子供から高齢者まですべての市民がお互いに支え合いながら、希望や生きがいを持ち、ライフステージに応じて健やかに心豊かに生活できる誰もが健康なまちを実現するため、市民の健康の総合的な推進を図ることを目的とした行動計画となっております。

次に、計画の基本的な考え方、基本理念と基本目標についてです。

こちらの図は誰もが健康なまちを実現していくためのイメージ図というとなっております。

本計画の基本目標は、健康寿命の延伸、健康格差を縮小となっております。

健康づくりに取り組むのは、市民一人一人ですが、その健康づくりを継続していくためには、支援が必要となります。その支援をするのが家族や地域社会です。そして行政は健康づくりを支援する取り組みをしていくことで、健康に向かう坂を緩やかにし、市民の皆さんが健康づくりに継続して取り組んでいただけるようにするという「ヘルスプロモーション」の理念をイメージしています。

計画の主役は市民の方お一人お一人となっております、市民がどのように行動すれば健康に向かうのか、健康寿命を延伸できるのかという視点で策定した市民の行動計画となっております。

次に、計画の位置付けについてです。

市町村には様々な計画がありますが、市川市総合計画という上位計画にあたる計画があり、その上位計画の中の施策の方向「健康で安心して暮らせる地域福祉の充実したまちづくり」という分野の部門別の計画が、本計画となっております。

本計画に関連する計画を様々書かせていただいておりますが、食やスポーツの分野、子育て、高齢者、介護の分野と、様々な分野の計画が関連計画として位置付けられております。

健康づくりは生涯にわたり行なっていくものであることから、いずれの計画についても市民の健康増進や健康づくりを目的とした事業になっているため、これらの計画を策定する課と連携整合性を図っていくことが重要であると考えております。

次に本計画の推進体制についてです。

こちら庁内庁外と分けさせていただいておりますが、まず庁内の関係課で関係連携を深めるため、またこの計画の進捗管理を行っていくために、関係部署に担当者を選任させていただき、庁内の会議をはじめ、担当者間で連絡調整を図っております。この庁内における会議のほか設置されているのが、本協議会です。

こちらは、庁外の関係機関として、皆様、委員の皆様からご意見をいただいた内容を庁内の会議体にフィードバックしていくことで、より効果のある事業や施策を行っていくため設置しております。

続きまして、健康いちかわ21第2次の中間評価の結果となります。

こちらは、中間年にあたる令和3年実施したアンケート調査を中心に評価したものとなっています。

生活習慣病予防の評価として、お示ししているのがこちらにあるとおりです。

「栄養・食生活」「身体活動・運動」、「休養」「飲酒」「喫煙」、「歯科口腔の健康」分野別の指標それぞれ、35項目109指標のうち、大きく改善したものが40指標、改善が15指標ということで、全体で約半数以上に改善が見られた結果になっています。

一方、改善が見られなかったD判定の部分は、20指標で全体の18%、変化なしが30%となっており、分野別に見ていくと、栄養・食生活、飲酒について判定が低い傾向があります。

各分野で評価改善が見られなかった指標について具体的にお話させていただきますと、栄養・食生活では、適正体重を維持している割合が減少、それに伴い、男女とも肥満の割合が増えています。

また肥満傾向にあるこどもの割合が増加、1日3食食べる人の割合が減少、朝食の欠食率が特に若い世代で増加していたという結果でした。

身体活動・運動については、主にこども、幼児、小学、中学生、高校生の運動習慣者の割合が減少していたという結果でした。

こころの健康については、睡眠による休養を十分にとれていない人の割合が増加、悩みやストレスを解消できている人の割合の減少が見られました。

飲酒・喫煙については、1日2合以上飲酒する人の割合が増加しており、特に男性で増加をしていました。

喫煙率については、男女ともに減少傾向でした。

歯科口腔の健康については、1年に1回、口腔がん検診を受診する割合が減少していましたが、策定時と比較すると、概ねA判定と大きく改善という結果でした。

社会環境の整備としては、相互地域での相互協力、助け合いに関する意識については変化がなく、健康づくり活動への主体的な関わり、ボランティア活動への参加の割合が減少しているという結果でした。

令和3年度はまだコロナの影響がある時期のアンケート調査となるため、こどもの運動の割合が減ってしまった、肥満の方が増えたというのは、コロナの影響というところも考えられるともみております。

続きまして、市民の健康に関するアンケート調査結果について簡単にご説明をさせていただきます。

こちらのアンケートは昨年11月21日から12月4日の間に調査をしました。

回答者数は合計2,390名で、従来はe-モニターアンケートという市にあらかじめ登録したモニターの方にお答えいただくアンケートで行っていましたが、今年度は新たにロゴフォームというQRコードから読み取り、スマ



ホヤパソコンでアンケートが答えられる簡単なアンケートフォームを作成し、市民の方にPRしたところ、多くの方からの回答が得られました。

年齢構成は、40代、50代、60代、70代の方の回答が多くなっており、男女比は約半々となっています。

まず設問1、自身の健康状態、先ほどの健康寿命の指標の1つ目に該当するものですが、あなたは健康だと感じますかという質問に対し、良い、まあ良い、普通と回答した割合を示しております。

母数が少なく偏りがある年代もありますが、概ねどの年代も約9割の方が健康と回答をいただいています。

次に食生活の分野から設問6、1日2食以上、バランスの良い食事を摂っている者の割合、こちら先ほど示しました指標の食生活の分野で見えていく項目のひとつになります。

男女とも年齢により差が出ていますが、高齢世代、60代以降の方に関しては6割以上の方がバランスのよい食事を摂っていますが、20代から40代の方は5割を下回る状況で、年齢が若い方ほどバランスの良い食事を摂れていないという傾向でした。

次に運動についての分野から、設問8、1日30分以上かつ週2回以上の運動を1年以上継続している者の割合は、食生活と同様、高齢世代と比較しやはり20代から50代、働き世代が5割を下回るような結果でした。

特に女性の30代40代の忙しい世代の割合が、最も低くなっており3割を下回っているような状況でした。

次に、社会参加についての分野では、設問9、1年間に何らかの地域活動に参加した者の割合について、こちらは男女で比較すると、女性に比べ男性の参加割合が低くなっていました。また、参加したかったができなかったという方も一定数いるというような結果でした。年齢で見ると60代以降の方の方が、まずの社会参加地域の活動に参加するという意欲があるのかなと見ています。

次に、こころの健康づくりの分野から、毎日の睡眠で休養が十分にとれている者の割合については、男女とも20代からやはり50代の働き世代で、睡眠による休養をとれていると回答した方が少ない状況でした。

そして、こちらのアンケートについては、毎年度行っているため年度毎の比較をしてみました。

令和元年度、令和4年度、今年度との比較をした結果について、栄養・食生活に関しては、ほぼ年度毎の変化は見られず、横ばいでした。

毎日朝食を摂る者の割合も横ばいで約8割でしたが、こちらは今年度のアンケート結果と同様、男女とも20代で欠食率が約4割となっています。バランスのよい食事を摂る者の割合についても、横ばいで6割弱という結果でした。こちらについても男性で50代以下、女性40代以下の若い世代で低いというような状況でした。野菜を350g以上摂取できている者の割合は、わずかに増加していましたが、市民全体で見ると、4%という低い結果となっています。

身体活動・運動については、運動習慣者の割合は男女共に増加傾向でした。しかしながら、今年度のアンケート同様男女ともに働き世代では半数以下、特に30代女性の割合が低いという傾向は、年度比較しても変わりありませんでした。

次に、こころの健康について、睡眠による休養を十分にとれている者の割合は、増加傾向でしたが、特に30代から50代の女性の3割以上が十分でないという回答をしていました。

飲酒・喫煙については、中間評価では飲酒の割合が増加していましたが、令和元年4年5年と比較していくと、毎日飲酒する人の割合は、男女共に減少傾向、喫煙率についても減少傾向となっていました。

最後に社会環境の整備、社会参加についての分野では、社会活動に参加した者の割合は、やはり令和元年コロナ前が一番高くなっていましたが、令和4年より今年度の方が改善をされており、若干の増加というような結果でした。こちらでも年度毎に見ても男性より女性の方が、参加率が高いという状況でした。

健康いちかわ21第2次の進捗報告アンケート結果についての説明は以上となります。

【座長 藤澤委員】

ありがとうございました。いかがでしょうか。

色々数値的なご説明がございましたけれども、ご質問、ご意見いかがでしょうか。

【健康福祉センター 久保木委員】

市川保健所 久保木です。ご説明ありがとうございました。

アンケートの集計に関するものですが、eモニター登録者の方とロゴフォームで回答された方が3,290名の方ということでしたが、こういう回答をいただける方は意識の高い方なのではないのかなと感じます。

そこら辺をどのようにとらえているのかってことをお聞かせいただきたいのと、

特にそれが、喫煙率、No.11の現在吸っている方は現在吸っている方が6.9%になっていますが、今千葉県という20%くらいで、質問の仕方の違いなのかもしれないのですが、意識が高い方が多いような構図になっているのかそのあたりについてどのように考えていらっしゃるかお聞かせください。

【事務局 久木】

ご質問ありがとうございます。

久保木委員のおっしゃるとおり、やはりこういったアンケートに意欲を持って回答してくださる方は、元々健康意識の高い方だと認識しております。そのため喫煙率であったり、飲酒、また運動習慣について、健康意識のある方の回答ということで、県と比較しても割合は高くなっているのではないかと思います。

健康無関心層に関してアンケート調査をしていくことは難しく、課題ではあります。

後程またご説明をさせていただきますが、来年度は第3次計画の計画策定に向けたアンケートということで、自主的なアンケートではなく、無作為抽出にて郵送するアンケート調査を予定しております。それでもやはり意識の高い方の回答にはなってしまうと思いますが、多少は差が出るのではないかなと考えております。

【座長 藤澤委員】

その他いかがでしょうか。

毎年の調査は、どうしてもeモニターの方ですのでバイアスがかかるとことは想定されると思いますが、積み重ねていくことによって、問題が見えてくるということもあると思います。

それぞれの分野で具体的にどう評価していくのか、栄養・食生活、身体活動、こころの健康などございますので、そういった点からも見ていただければと思います。

全体としてはどうしても働き盛りの方々はお仕事等、優先の順位があるので、社会活動や身体活動などに時間が取れないという方もいるような結果になっていると思います。そういった意味では、高齢な方々が非常に積極的に様々な活動をされていることがわかったのではないのでしょうか。

それでは、続いて次期計画の策定スケジュールについてご説明いただいた後に、改めて質問等お伺いいたします。

【事務局 川原】

それでは、健康いちかわ21の次期計画策定スケジュールについてご説明させていただきます。

国の計画「健康日本21」は、令和5年度、今年度に第二次計画が終了し、令和6年度から三次計画がスタートします。こちらは令和17年度までの、12年間を計画期間としております。

同様に千葉県の健康ちば21計画も今年度終了し、令和6年度より、12年間を計画期間とし、スタートする予定です。

市川市ですが、現計画の第二次計画は平成28年度から令和7年度の10年間計画となっております。概要版の通りになりますが、次期計画の第三次計画は、令和8年度から開始となりますので、策定スケジュールとしては、令和6年度及び令和7年度の2年間で策定に向けた準備を進めて参ります。

具体的には、令和6年度に現計画の評価をするためのアンケート調査を秋頃を実施し、集計分析を行い、次期計画の方向性、そして評価指標の検討を進めて参ります。

最終年の令和7年度には現計画の最終評価、次期計画の総論各論を検討し、骨子案を作成、パブリックコメントの実施、最終計画書、及び、概要版を完成させてまいります。

本協議会は、こちらの計画の策定に係る外部機関として、年間2回程度の会議を開催し、計画に関わる審議、意見交換を行っていただく予定でございます。委員の皆様にもご協議いただき、ご意見を頂戴することになりますので、引き続きよろしく願いいたします。

次期計画の策定スケジュールについては以上になります。

#### 【座長 藤澤委員】

ありがとうございました。スケジュールも国や県の計画とそれを受けて、市の現状を確認しつつ、市の計画を立てていく、その立てた計画についてもご意見いただくという形になりますので、皆さまよろしく願いいたします。このスケジュールに関して、何かご意見ございますでしょうか。

健康増進計画は、凡そ10年の計画で、非常に長いスパンの計画であり、中間で評価をしていくというようなことを繰り返しつつつくものなので、なかなか全体を見回しながらスーパーバイズするのはものすごく難しいように感じています。

結局、だいぶ経ってからあの時代はこうだったと確認するような、私などはそういう形で気づくことがありまして、実際には国民一人一人、市民一人一人の生活の中で積み上げていくものですので、できるだけ理解してもらい行動に移してもらうところが重要であると思います。そういう意味でも計画についてのご意見も、またご協力いただければと思います。

市の健康増進計画、取り組み、方向性について御説明をいただきました。

この後は、皆さま各団体の取り組みの状況を説明していただきながら、この今回説明していただいた取り組みとつながりがあるか関わりがあるかなど、順番にお話しいただければと思います。1団体5分程度で名簿順にお願いいたします。歯科医師会の鈴木先生からお願いいたします。

#### 【歯科医師会 鈴木委員】

歯科医師会の鈴木です。

歯科医師会の方では、検診事業としてこちらにあります口腔がん検診の他に、二十歳の健診、歯周疾患検診、妊婦健診がございます。先ほど口腔がん検診の受診者が減少しているという結果がでていましたが、口腔がん検診に関しては、利用する市民の方が、市の保健センターに連絡をとり、受診券を発行していただくという、そのあたりの手間というのが、どうしても他のがん検診に比べると、受診率が低いというのは結構あるのかなと思います。

この検診とともに各市民が継続できるような形になればもう少し受診率も増えていくのかなと感じます。

検診に関しましては、先ほど申し上げた、歯周疾患検診で10年に1回の健診です。50歳の方が、次に受ける

年齢が60歳になりますので、もう少し細かいスパンでできないのかなというふうに思いますのでその辺り、市の方に要望したいと思います。

それと私たちの取り組みとしましては、小学生へ向けて口腔機能向上のため、市が行っているヘルシースクール事業のうち、健やか口腔検診を担当しております。唾液検査、咀嚼機能の検査、咬合検査とういうのをしています。今、口腔機能が正常に獲得しない子供というのがたくさんいます。物を食べる、物を飲み込むというのができてはいるけれども正常でない。正常ではない子というのは、その後、その子たちが歳をとって、老化した時に、口腔機能低下が早いと言われていています。しっかりと物を飲み込めないことは誤嚥性肺炎に繋がりますので、小学生のうちから正常な咀嚼、嚥下というのをしっかり獲得をさせて、年をとった時になるべく低下しないよう、そういった取り組みを今はやっております。以上です。

【座長 藤澤委員】

ありがとうございました。続きまして市川健康福祉センター 久保木委員お願いいたします。

【健康福祉センター 久保木委員】

こんにちは、久保木でございます。今のお話を聞きながら鈴木委員にお伺いしたいのですが、咀嚼機能は小さい頃から獲得する機能ですから、原因は幼児期の離乳食とかそういうところからもきているのでしょうか。

【歯科医師会 鈴木委員】

究極にいえばそうなります。

【健康福祉センター 久保木委員】

母子保健の取り組みが大事ということですね。つながっているんだなと思いました。

【歯科医師会 鈴木委員】

もちろん、そこも大切です。それと各小学校ですこやか口腔検診をやるときに、咀嚼能力を判定するためのガムを食べるのですが、見ていると口を開けて噛んでいるお子さんが多いです。噛むときは口をしっかりと閉じて噛むのが正常ですが、口を開けて噛んでいるというのも一定の割合でいる状況で、口を開けて噛んでいるとしっかりした嚥下ができませんので、正常の嚥下とは全然違う仕組みで嚥下をしていくことになります。そういった嚥下機能がのちの嚥下機能の低下につながっていると思います。

【健康福祉センター 久保木委員】

はい、ありがとうございます。今のお話を聞いていると、やっぱり各方面で色々な情報共有していき、健康寿命の延伸につなげていかなければいけないんだと思いました。

健康福祉センターは県の保健所でもあり、福祉センターなので福祉の部分もございます。

実際、感染症や難病、コロナ対策なども実施しておりますが、健康という面でいうと、地域職域連携推進協議会において働き盛りの方々職域と健康づくりの情報を共有することで、お互い活用していただくというような取り組みを実施しています。特に従業員の方々は、在住ではなくて、在勤なのでなかなかそれも難しい。そこから辺をどうしていくかについて、協議会の先生の意見をいただきながら検討しているところです。

なかなかそれも進むのが難しいですが。

あと県としては、先ほどご説明がありましたように、健康ちば21は、今改定中であり、この2月5日からパブコメを開始いたしますので是非ご意見をいただきたいところです。

国もそうなのですが、今後、無関心な方々への取り組みですとか、自然に健康になる環境づくり等が重要とされています。市川市の方にもお伝えできればなと思います。よろしくお願いいたします。

【座長 藤澤委員】

ありがとうございました。それでは、健康都市推進員会 曾田委員お願いいたします。

【健康都市推進員会 曾田委員】修正済

はい、曾田です。

冒頭で事務局からご説明がありましたように、今まではあまりコロナ禍で十分な活動ができなかったんですけども、去年健康フェスタをさせていただきました。皆さんにいろいろと参加していただき、健康の意識、それから知識、そして実践をやってもらうように話をしたところです。

意識というのは、例えば皆さんで、朝体温計ったり、体重測ったり、血圧測ったりされると思います。私はアルコの歩数計を朝見ることにしています。昨日1万歩超えたとか、9000歩いたということを確認しながら、健康を意識しております。

色々な意識と知識を持って、実際に実践することが健康増進活動には非常に重要だと考えています。それから、それをサポートする点で、社会的な枠組み、医療だとか福祉だとか、教育、そういうことについても、行政の方々が、世話をさせていただきたいなと思っています。

例えば教育について、私の経験から言うと、若宮小学校で、体操教室を定期的にやってるんですけども、去年の11月に、教育委員会から、学校のコミュニティスクールで、スポーツの体験事業をやって欲しいという依頼がありまして、ペタンクっていう競技を、若宮小学校全校生徒が600人のうち185人に体験学習してもらうことができました。そのためにスポーツ推進員協議会、新井副会長にもご協力いただいて、ご指導いただきました。このような地域の連携が大事だなと感じています。

【座長 藤澤委員】

ありがとうございました。それでは、続いて、保健推進員の小川委員お願いいたします。

【保健推進員 小川委員】

保健推進員は、第1子の3ヶ月児と、乳児期に転入してきたお子様のいるご家庭に訪問し、予防接種、健診、地域の情報のご案内の他、市公式Webサイトの紹介などをしております。お母さんとのコミュニケーションの中で得た、いろんな情報や育児不安などを、保健センターに報告しております。今はなかなか玄関先まで出てもらえない状況があり、2回ぐらいは訪問してなるべくお話はしてもらえようようにしています。

【座長 藤澤委員】

はい、ありがとうございました。続きまして食生活サポート協議会 君和田委員お願いいたします。

【食生活サポート協議会 君和田委員】

私たち、食生活サポート協議会は、市民の皆さまへ食生活の大切さを伝え、健康への意識を高めていただけ

るよう、市川市より51人委嘱されまして、食による健康づくり活動を行っています。

令和5年度は9月に、「骨・ほね・しっかりずっしり簡単カルシウム飯」というテーマで保健センター、南行徳保健センターの2か所で講話と調理デモンストレーションを行いました。

他には放課後保育クラブなどで健康教育を行いました。こちらは小学校の夏休み期間を利用して、子供たちに、好き嫌いのないおいしい食事ということで、計画させていただきました。

また、コロナ禍で中止しておりました親子の食育講習会も4年ぶりに開催いたしまして、調理実習も行いました。先ほど皆さんにお配りしたチラシにも書いてありますが、レシピを作成し、市民まつりや農水産まつり、買い物不便地域対象のための移動販売のところで、配布を行っております。

事前にこちらの方からいただきましたアンケートを見させていただき、やはり食育に関することがたくさん書いてありましたが、野菜摂取量がもう350gが全然取れていないとか、1日2食以上取っている方が55.9%とか、とても栄養面で心配なことが多いと思います。そのような様々な課題について少しでも解決できるように、食生活サポーター一人一人が取り組んでおります。

また、去る1月1日に、能登半島大地震なども起こりました。

本当にびっくりいたしました。こちらは1ヶ月経って、ニュースなどでも水やご飯などは配布されるようになってきましたが、健康的な栄養、例えば、野菜とか果物とか、ビタミンミネラルなど、そういう面に関してはやはり二の次、三の次になってしまいます。市川市でもいつ地震が起こるか、そういうことはわかりませんので、そういう災害の時のためのリーフレットなどにも、こういう栄養、運動、そういったものを書いていただいて、平時の時から皆さんに知っていただけるといいなと思っております。以上でございます。

#### 【座長 藤澤委員】

ありがとうございました。それでは続きまして、民生委員児童委員協議会 木村委員お願いいたします。

#### 【民生委員児童委員協議会 木村委員】

何を話していかちょっとわからないんですけども、民生委員活動として、私も今年で4年目になりますが、その経験の中で、日々感じていることと、今日の健康の話がどこでつながるか先ほどからずっと考えたんですね。その中で、先ほどのアンケートの中で、まず児童委員として考えていくと、子供の関係なんですけど、10代の頃には、食とか運動とか、地域参加とか睡眠とかはみんな男の子の方が女の子よりも数値が高いんですね。ところがそのあとになると逆転してしまう。

なんで20代になる頃からは、みんな変わっちゃうのかというのは、非常に素朴な疑問として感じていたのですが、学校とか、それから親御さんの話を男の子が割とそういう意味では親御さんのいう話を聞いて、運動にも参加している。女の子の場合、少し早く成長しているのかな、親御さんの言ってることについて、自分で何か考える、というのを持っているのそのように出てくるのかなと。いろいろ先ほどから考えているんですが、その辺をどう考えてらっしゃるのかっていうのを、実は聞いてみたいと思います。

#### 【座長 藤澤委員】

今回のアンケートでは10代の方の回答数がものすごく少なく、この回答した方がそういう人たっただとなるかと思えます。ですので、日々対応されているお子さんたちの様子から、観察いただいて男の子、女の子どのような様子かなと確認していただけたらと思いますし、今後、中間報告等ではたくさんのお子たちのアンケートを実施しますのでその結果をみていただくと宜しいかと思えます。

【民生委員児童委員協議会 木村委員】

今、アンケート結果だけの話をしてるだけですので、その後、そういう課題があれば、そこをもう少し掘り下げていく必要がこのアンケートにもあるのかなと思いました。

2つ目ですけど、生活費のことですね。今の食に関しては、子ども食堂っていうのは、私の家の近くにもあるのですがそこで食を提供している。市川市全体でも子ども食堂がある、全国的にも子ども食堂があり、ちょっと話題になって、そこで食が確保されている。もっと年をとった方たち、市川市ではいちカレーしてるみたいですが、そういう意味では、経済的に苦しい方への対応としては、割と健康都市いちかわ市の姿が見える取り組みをされているんじゃないかなって感じています。

これらの活動はおそらくデータとして積み重なってくると思うんですけど、それが今後の更なる取り組みへのつながりになるのではないかなと。

私、今、民生活動として訪問してるんですけど、この方は、独居になってから、ちょっと生活が不安だということですが、たまたま今日も行ってきたのですが、お医者さんに行って、身体の具合も良くなったので、少し運動した方がいいですよって言われてきたそうです。今日、私が行った時は天気が良かったもので、散歩したらどうですかみたいな話をしてきたんですけど。そういう、ひとりで頑張る人は結構いらっしゃるんじゃないかなと思うんですね。その方たちが、親御さんとか近所の方に認められたり、自分の取り組みに対して、少しでも他からの評価があると継続的に繋がるのかなというふうに思っています。ですから私もその方がどれくらい散歩しているのかということは確認している。併せて、そういう方たちとプラス、今、私が参加している地域ケアシステム推進の中で8ブロックにわかれていろんなサロン活動してしてるんですけど、そこでは、健康体操をやったり、つまり、参加できますよっていうパンフレット作って周知しているんだと思うんですね。

一人一人の方がどこにどんなことがありますかを知ることが大切だと思います。

健康づくりもできるし、こころと身体健康づくりについての取り組みがそういう地域の努力で、今現在できあがってるんじゃないかと思うんですね。

それがどこまで続くのかということですが、設立してから20年、ということは20年ほど行ってるんだなと思いつつながら、その方たちが20年前のメンバーはそのまま20年後メンバーとして運営してるんですよ。60代の方が参加したら80代になってもまだ運営してるんですね。

その人材の交代が出てこない、継続的にはなかなか難しいのかなって思いつつながら、会社だとね、必ず定年があって次の人があるんですけど、地域活動っていうのは結構気持ちもしっかりした人たち、社会貢献したい、高齢化しても支えていこうというのは、今、老老介護みたいな話なんですけど、それがいつまで持続していけるかというところは、これからの大きな課題になるのかなって思いつつながら、地域である程度年齢の若い方に少しでも参加してもらおうそんなことを、私たちは思っています。以上です。

【座長 藤澤委員】

ありがとうございました。それでは、市川市スポーツ協会 清水委員お願いいたします。

【スポーツ協会 清水委員】

市川市スポーツ協会の清水と申します。

私は、この健康都市推進協議会に参画したのは、その当時千葉光行市長が発案され、この体育協会に協力要請があり、参加をした経緯があります。スポーツをやる者は、体力と筋力の向上は当然のことではありますが、一番重要なことは、心とからだの健康ということで、常々思っているところです。

依然としてなくなる問題がテレビ、新聞等のニュースで知ることが多いですが、何か事件・事故を起こした犯人に事情聴取をした際、「人を刺してみたかった」「殺してみたかった」というように、非常に簡単な動機で犯行に及んでいる姿を数多く見かけており、この状況をそのまま続けてよい訳がない。この状況はこころが健康でなく正常でない状況であると考えられます。

つい先日のことでありますが、連続企業爆破事件で指名手配され50年もの長きにわたり逃亡の末、本人が病気になり余命をなくした処で、反省し自身が犯行に及んだことを自供し、その数日後に亡くなった事件がありました。ようやく50年経って、犯人の心が健康を取り戻し正常になった気がいたします。

やはり良い事と悪い事を判断できる青少年を育てることが重要であり、スポーツ活動を通して対応をすることが、市民の健康につながる手引きとなると考えております。

私自身、中学校からスポーツクラブに入会し学校のクラブ活動に専念した訳ではありますが、小学生の頃は風等の病気で休みがちでしたが、中学生でスポーツ部に所属したら、自他共に認める健康体になり、大きく変身しました。

中学生の保健体育の事業の中で「このクラスに健康なものはいるか？」との問いに私は「はい、健康です」と手を挙げたわけですが、もう亡くなった先生の言い分では、健康とは頭が良くないと言えない。清水は頭が悪いから健康とは言えないと言われた言葉を今も覚えております。

健康のありがたさは歳をとってから常に思っている次第ですが、70歳を過ぎてから入院を要する病に連続してかかり、その後遺症のためか倦怠感が残り苦慮しているところですが、やはり健康体のからだは資本であり、健康都市推進協議会委員を務めるためには、常に自覚をする必要があると思います。いずれにしても、市民が健康であることを認識し、努力することが重要で、健康都市推進を進める意義があると考えております。

#### 【座長 藤澤委員】

はい、ありがとうございました。それでは、スポーツ推進委員連絡協議会、新井委員お願いいたします。

#### 【スポーツ推進委員連絡協議会 新井委員】

こんにちは、スポーツ推進委員の新井でございます。資料を2枚お配りしました。

市川市長より委嘱を受けましてスポーツ推進員は活動しております。

資料2枚目に記載されておりますが、市川市内13地区に分かれて定期的に軽スポーツ等を皆さまに提供させていただき、各地区、コロナ禍で活動できない時もあったんですけども、今年度は以前のように皆さまに参加していただきまして、各地区楽しく活動しております。

1枚目に戻っていただきまして、年間このような活動をしております。先日清水会長にも出席していただいたんですけど、1月1日には、ここには書いていないのですが、元旦マラソンも例年お手伝いしています。一般公募です。船橋市からもたくさんのお客様に来ていただきまして、盛況に終わりました。

この①エンジョイスportsは6月に行われたものです。②みんなでSportsが10月に行われたものです。③ファミリーキャンプは6月、7月、9月に行われたものです。毎回12家族、抽選となっております。どの活動も昨年よりも人数も多く参加をしていただきまして、とても光栄に思っております。

私たち推進員は、体を動かすって楽しいなって感じてもらえるように、毎回、参加してよかったと感じてもらえるように一同が進めている次第でございます。

一方で、問題点としましては、やはりなり手不足というのがございます。子育て世代や働き盛りの方々はなかなか時間がございません。定年を迎えた方々もご自身のために余暇を楽しむなどに使われる方もいるかと思



ます。しかしながら、私たちは、定期的に活動したり、体を動かすことを継続することで、“健康”になるということに少しでもお役に立てればと思っております。

先ほど曾田さんもおっしゃったんですけれども、地域との繋がりもとても必要だなと思っております。小さいお子様からあらゆる年齢層の方々と幅広く繋がるのが、とても大事ななと思っております。

また、本日参加された方々のお話を聞き改めて本当の意味での健康の大切さを実感致しました。そのことを推進委員の皆様にも伝達していきたいと思っております。私共がまずは健康でないと参加者にも楽しんでもらえないと思っております。今後も健康により関心を持ちまた留意し、楽しく継続して活動していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【座長 藤澤委員】

はい、ありがとうございました。それでは、いちかわライフネットワーククラブ 五関委員お願いいたします。

#### 【いちかわライフネットワーク 五関委員】

いちかわライフネットワーククラブ TMOフェローをしております五関と申します。今年から始めこちらの会議に出席させていただいております。いちかわライフネットワーククラブの青山理事より引き継いで参りました。

TMOは市民活動のためのリーダーを育てる講座となっており、私自身は、今はフレイル予防のための活動しております。ちょうどコロナ禍の2020年立ち上げ、活動自体がなかなかうまくいきませんでした。コロナが明けて、去年、2023年は参加者がたくさん増えてきました。

今、市川市内で5ヶ所の拠点で、高齢者の体操の場づくり、コミュニティづくりに力を注いでおります。会場は宮久保自治会館、西部公民館、曾谷公民館、平川自治会館、市川市文化会館、この5ヶ所拠点で月2回のフレイル予防体操を企画運営しております。

多くの高齢者が、コロナ禍で体力の低下を感じていられて、体力を取り戻すために体操したい、その場所を探していたとよく聞きます。ですから、最初は月1回から始まった体操ももっとやって欲しいということで、月2回開催するようになりました。

ようやく2年経っていろんなデータも出てきたところです。

2025年問題に対して、とても危機感を持っていたのですが、コロナがあってからさらにそれを強く感じました。これからまだ活動は続けていくのですが、先ほど1人の方が、例えば散歩でもしてみたらという声掛けから始めて、グループでどこかで活動されているようなところに、案内してあげたり、誰がとおしゃべりするだけでもいい。そこでまた、運動やスポーツがあったり、色々な世界があったりすることで、介護が予防できていく。それが1年でも2年でも予防できて、健康寿命がさらに伸びて、そういうサイクルが、その一人一人にできてくれば、もっと市川市の健康寿命が延びていくのではないかと思います。

今日初めてお会いした方ばかりなので、ぜひ繋がっていただいて、市民の健康環境がどんどん良くなっていく方法とか、そういう仕組み作りとか、何か一緒にできることがあればいいなと今日は強く思いながら参加させていただきました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

#### 【座長 藤澤委員】

はい、ありがとうございました。

時間も迫って参りました。お互いにご意見交換をするのもっとお話まとまっていくと思っておりますけれども、それぞれの団体がとても熱心に取り組まれているということがわかりましたし、保健医療の分野それから福祉の分野、

それぞれの分野が連携して市川市の健康都市を作っていくってということは、貴重なご意見を伺えたと思います。子どもからお年寄りまで、それぞれ、あるいは働き盛りの方々にも、職域を通してある研修の制度の仕組みを作るとか、そういったところもいろいろ問題提起をしていただきました。今後とも連携を持って、活動を続けていっていただきたいと思います。

【食生活サポーター協議会 君和田委員】

1つだけ質問していいですか。先ほどのアンケートの件ですが、確かに色々なことがあって統計がとれてすばらしいんですけども、当協議会としてはとしては、アンケートは皆、紙で渡して料理を好きな人書いてもらうのですが、大体60歳以上の女の方が主なんです、先程のように20代、30代から60、70代まであれだけの人数がいたら、統計だけではなくて、なぜそう思うのかっていう理由、それが一番知りたくて、そのところを上手に文章でもし書けないんだったら、いくつかの項目でこういう理由があるんじゃないか、そういうこと自分だったらそう思うとか、周りの働いてる人はこう思ってるからこうやってるって、そういう理由を聞かせてもらったらいいのではないかな。そのあとも、私たちのアクションが起こせるんじゃないかなと思うんですが、アンケートについてはどうなんでしょうか。

【事務局 久木】

ご意見ありがとうございます。

毎年度行っているアンケートは、設問数がかなり限られてきており、聞きたい項目を全部設問としてしまうと、かなり量として膨大になってしまいます。毎年度行っているアンケート項目については、大体三分以内に終わる程度のボリュームで、チェック方式で取っていただけるような内容で考えさせていただいているところです。ただこちらにお示ししております、第三次計画の策定に向けたアンケート調査は、書面で郵送して行わせていただく形になりますので、少しアンケート項目は増やしていく予定としております。是非またそのアンケート項目の策定の際には、皆様のご意見をいただきながら、作り上げていきたいと考えております。また次年度の協議会の中で具体的に設問についてのご意見を、会議の中で、ぜひ活発に出していただけたらと思っております。

【スポーツ協会 清水委員】

あとは1点、すいません。さっき追加で言うておけばよかったのですが、本庁舎ができる前に、体育協会では国府台体育館の会議室を利用しての会議が多くありました。私は車で走っていたものから、職員に「市川駅までならお送り致しますよ」と声をかけると「健康のために歩きます」という回答が返ってきたことを覚えております。私今日初めてこの事務局の方に会うのですが、事務局の方は、実際いかがですか、バスがあればバスにのる、タクシーならタクシーが乗る。いや、健康のために歩いてる、そういうふうな意識はどうかかなと。

【事務局 健康都市推進課長】

健康都市推進課長の稲垣です。健康都市推進課職員は、健康都市ということで、やはり健康の意識が高いかなと思っています。

私はこの4月からこの健康都市推進課に来ました。前は危機管理部門で防災関係をしておりましたが、こちら来てやはり意識的には歩こうと、そういったものが刷り込まれてくると思います。私は基本的にバスや電車などは乗らないのですが、最近は自転車にも乗らず歩いており、続けていくべきと思っています。

【スポーツ協会 清水委員】

わかりました。ありがとうございます。

【座長 藤澤委員】

市民の皆さま一人ひとりが意識を高めしていくことは大切だということがわかりました。  
以上で議事の終了にさせていただきます。それでは最後に事務局のほうからお願いします。

【事務局 久木】

藤澤先生ありがとうございました。最後に事務局からの情報提供をさせていただきます。  
委員の皆様からもご意見いただきましたとおり、市民の方への周知どうしていくかということで、今年度から始めたことについてご案内をさせていただきます。  
今日ご説明させていただいたアンケートについては、2月の広報の特集号でも掲載を一部抜粋してさせていただきます予定としています。また、市公式webサイトのトップページに健康寿命日本一へというので特設コーナーを開設しており、こちらをクリックしていただくと、健康寿命延伸に向けた取り組みということで、「知ろう」「参加しよう」「予防しよう」「相談しよう」とそれぞれの項目に関連する事業というものが検索できるようなサイトを開設しております。  
「参加しよう」をクリックしていただくとその下の参加できるようなスポーツ教室など、各ホームページのリンクが貼ってありますので、市民の皆様が市がどのようなことをやっているのかご理解いただけるように作成しています。ぜひ皆様も一度見ていただき、各会の皆様にもご周知いただければと思います。  
2つ目は配布いたしました「下総江戸川ツーデーマーチ」のリーフレットをご覧ください。  
こちら今年の4月13日14日の2日間開催ということで決定しております。市川市の健康都市推進協議会と市川市健康都市推進委員会も後援させていただいておりますので、ご参加いただける方は、是非ご参加いただければと思います。事務局からは以上となります。

【司会 健康都市推進課長】

それでは本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございました。  
先ほども説明しましたが、来年の協議会は2回ほど行う予定としております。  
日程等は決まり次第、皆様にまたお知らせさせていただきたいと思いますので、改めてご審議のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。  
それでは本日の会議はこれで終了させていただきます。ありがとうございました。